

1 単元名 球技：ベースボール型(ソフトボール)

2 単元の目標

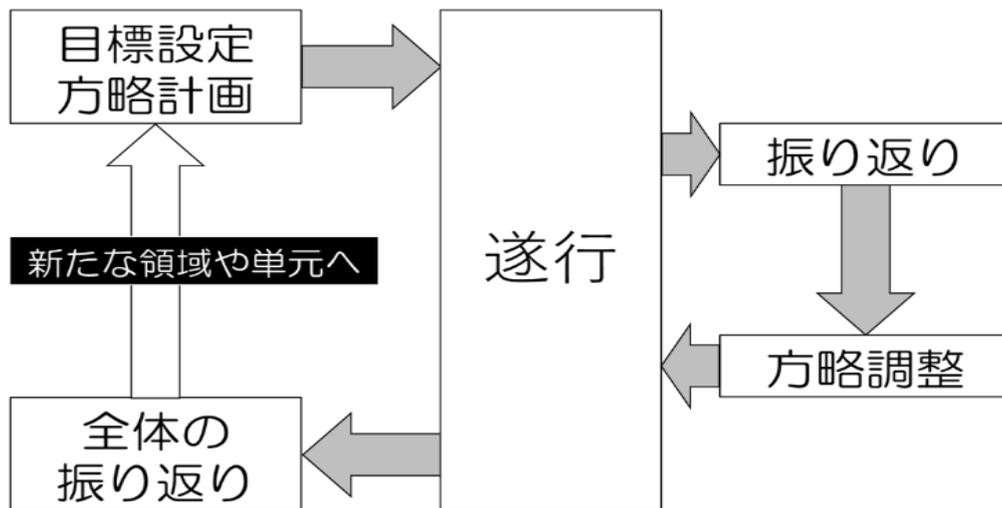
- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。  
ウ ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができるようにする。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

3 運動の特性

ソフトボールはベースボール型の種目で、ボールやバットなどの道具を用いて、攻撃と守備を規則的に交代しながら試合を行う。試合ではボールを打って走者を進塁させたり、打球の捕球や送球によってアウトを取ったりして、規定の回数内で得点を取り合い、失点を防ぎ合い勝敗を競うスポーツである。その中でも特にボールを思い切り打つことに魅力や楽しさがある運動である。また、仲間と協力して攻撃や守備を工夫しながら得点を競い合い、投げる・捕る・打つ・走るなどの様々な運動技能を要するため、バランスのとれた運動能力を養うことができる。さらにチームで行う集団運動であるため、協調性やマナーなどの社会性を育むことができ、ルールを工夫することで、今ある生徒の技能でソフトボールのゲームの楽しさを味わうことができる。

4 全体研究・教科研究との関わり

- (1) 本単元における「主体的な学び」のプロセスモデルを意識させながら、学びに向かわせる手立て  
「学びに向かう力、人間性等」は自ら課題を見出し、その解決に主体的に取り組もうとする態度である。授業の中で習得した知識や技能を活用し、思考、判断、表現していく過程の中で自らの課題やチームの課題を見出し、仲間とともに解決策や作戦などについての話し合いを積極的に行い、粘り強く課題解決に向かっていく力を育てていく必要がある。本単元では、『目標・課題設定（全体・個別）』や『仲間と協働する活動』、『ICTの効果的な活用』を行うことで、育てていくべき力を高めていきたい。  
知識や技能を積み上げていくことで、既習事項を活用して目の前の課題に対する方略（より良く活動するために）を調整し、新たな発想を創造していけるようにしたい。



エンゲージメントの高まり（生徒の姿）	
目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高いレベルの関心をもつ課題や日常生活で直面する課題，現実世界で解決すべき課題，自らのキャリア形成に関連する課題を選択する。</li> <li>・ 挑戦の感覚，知的好奇心，学習への期待感をもつ。</li> </ul>
方略計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴールを設定し，過去の学習経験を生かしながら，課題解決のための学習方略を考える。</li> </ul>
遂行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画に基づいて，学習を遂行する。</li> <li>・ 計画した方略や必要に応じて調整した方略に基づいて，個人やグループでの学習活動に熱心に参加する。</li> </ul>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自らの学びの効果を振り返る。また，学習の進み具合を把握し，見通しをもつ。</li> </ul>
方略調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて学習方略を修正する。</li> </ul>
全体の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自らの学びの質や成果を振り返る。</li> <li>・ 学ぶ面白さや楽しさを感じたり，有能感や充実感をもったりする。</li> </ul>

図1 「主体的な学び」のプロセスモデル

(2) 本単元における新たな意味や考え方を見出す思考力，判断力，表現力を育成する手立て

「思考力，判断力，表現力等」は自ら見出した課題の解決に向かって，新しい知見や技術革新を取り入れながら，これまでに得た知識や経験を結び付け，新たな意味や考え方を見出すことである。個人で考えたことをチームの中で共有し，新たな意味や考え方を見出しながらゲームを展開できるようにしたい。本単元では、『発問の工夫』や『場の設定』、『ICTの効果的な活用』を行うことで，育んでいくべき力を高めていきたい。

グループでの話し合い活動の様子を録画し，記録として残しておく時間を設定する。自分たちのグループが話し合った過程を確認できるようにすると同時に教師の評価の参考材料として活用できるようにしたい。話し合いを行う上での視点（問い）を明確にし，生徒が考えながら授業に臨めるようにしていきたい。ゲームや課題分析のために映像を記録する。その際，どこから何を撮影するかについても生徒が考える場面を設定し，考えを深めていくことができるようにしたい。

5 第1学年及び第2学年「球技」の全ての「単元の評価規準」

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</li> <li>対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、言ったり書き出したりしている。</li> <li>球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。</li> </ul>	<p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>投球の方向と平行に立ち、肩越しにバットを構えることができる。</li> <li>地面と水平になるようにバットを振り抜くことができる。</li> <li>スピードを落とさずに、タイミングを合わせて塁を駆け抜けることができる。</li> <li>打球の状況によって塁を進んだり戻ったりすることができる。</li> <li>ボールの正面に回り込んで、緩い打球を捕ることができる。</li> <li>投げる腕を後方に引きながら投げ手と反対側の足を踏み出し、体重を移動させながら、大きな動作でねらった方向にボールを投げるができる。</li> <li>守備位置から塁上へ移動して、味方からの送球を受けることができる。・決められた守備位置に繰り返し立ち、準備姿勢をとることができる。</li> <li>各ポジションの役割に応じて、ベースカバーやバックアップの基本的な動きをすることができる。</li> </ul> <p>※ゴール型、ネット型は省略</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</li> <li>提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。</li> <li>学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。</li> <li>練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。</li> <li>仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</li> <li>仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</li> <li>体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</li> <li>マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。</li> <li>作戦などについての話合いに参加しようとしている。</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。</li> <li>練習の補助をしたり仲間にも助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</li> <li>健康・安全に留意している。</li> </ul>

6 第1学年及び第2学年「球技」(ベースボール型：ソフトボール)の「単元の評価規準」

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>②対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、言ったり書き出したりしている。</p>	<p>○技能</p> <p>①地面と水平になるようにバットを振りぬくことができる。</p> <p>②スピードを落とさずに、タイミングを合わせて塁を駆け抜けることができる。</p> <p>③投げる腕を後方に引きながら投げ手と反対側の足を踏み出し、体重を移動させながら、大きな動作でねらった方向にボールを投げるができる。</p> <p>④各ポジションの役割に応じて、ベースカバーやバックアップの基本的な動きをすることができる。</p>	<p>①練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。</p> <p>②仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>	<p>①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②作戦などについての話合いに参加しようとしている。</p> <p>③一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。</p> <p>●健康・安全に留意している。 (評価対象とせずに指導)</p>

7 具体的な指導内容と「単元の評価規準」

知識及び技能		思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
知識	技能		
<p>ベースボール型球技は, 用いられる技術に名称があり, それらを身に付けるためのポイントがあること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①用いられる技術には名称があり, それらを身に付けるためのポイントがあることについて, 学習した具体例を挙げている。</p>	<p>基本となるバットの握り方や構え方から, バットを振りぬきボールを打ち返すこと。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①地面と水平になるようにバットを振りぬくことができる。</p> <p>次の塁をねらって全力で塁を駆け抜けたたり, 打球の状況によって止まったりすること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②スピードを落とさずに, タイミングを合わせて塁を駆け抜けることができる。</p> <p>ねらった方向にボールを投げたり, 味方からの送球を受けたりすること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>③投げる腕を後方に引きながら投げ手と反対側の足を踏み出し, 体重を移動させながら, 大きな動作でねらった方向にボールを投げるができる。</p> <p>各ポジションの決められた位置に戻ったり, 打球や送球などに備える姿勢で構えたりすること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>④各ポジションの役割に応じて, ベースカバーやバックアップの基本的な動きをすることができる。</p>	<p>練習やゲームの場面で, 最善を尽くす, フェアなプレイなどのよい取り組みを見付け, 理由添えて他者に伝えること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①練習やゲームの場面で, 最善を尽くす, フェアなプレイなどのよい取組を見付け, 理由を添えて他者に伝えている。</p> <p>仲間と話し合う場面で, 掲示された参加の仕方に当てはめ, チームへの関わり方を見付けること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②仲間と話し合う場面で, 提示された参加の仕方に当てはめ, チームへの関わり方を見付けている。</p>	<p>練習の進め方や場づくりの方法を選んだりする学習などに積極的に取り組むこと。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>自己の課題の解決に向けた練習方法や作戦について話し合う場面で, 自らの考えを述べるなど積極的に話合いに参加すること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②作戦などについての話合いに参加しようとしている。</p> <p>体力や技能の程度, 性別や障害の有無等に応じて, 自己の状況に合った実現可能な課題の設定や挑戦を認めようとしたり, 練習の仕方やゲームの修正を認めようとする。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>③一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。</p>

8 「球技」(ベースボール型：ソフトボール) 第1学年及び第2学年における指導と評価の計画

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や連携した動きでゲームを展開する。ウーベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができるようにする。												
	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。												
	学びに向かう力、人間性等	球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全を気を配ることができるようにする。												
	時	授業づくりのポイント												
学習の流れ	0	健康観察・ウォーミングアップ・本時のねらいの確認												
	5	オリエンテーション	ボール操作 (ゴロ・フライ・バッティング)				ボール操作等の反復練習				課題練習	リーグ戦	リーグ戦	
	10		簡易ゲームⅠ (30秒で何回キャッチボールのラリーができるか・4人で中継プレイ)				簡易ゲームⅡ (守備側がアウトゾーンにボールを戻すまでに、打者走者が進んだ塁が得点)		簡易ゲームⅢ (守備側は、打球を捕球後、走者の先回りをしてアウトにする。)					
	20	ボール慣れ	学習の振り返り・次時の確認											
45	まとめ													
評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	評価方法
	知	②									①	総括的な評価	総括的な評価	学習カード
	技			①	②	③		④		③				観察、スキルテスト
	思		①				②							学習カード、観察
態	●	①						③			観察、学習カード			
単元の評価標準	知	①球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ②対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、言ったり書き出したりしている。												
	技	①地面と水平になるようにバットを振りぬくことができる。 ②スピードを落とさずに、タイミングを合わせて塁を駆け抜けることができる。 ③体重移動をさせながら、大きな動作でねらった方向にボールを投げることができる。 ④各ポジションの役割に応じて、ベースカバーやバックアップの基本的な動きをすることができる。												
	思	①練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどの良い取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ②仲間と話し合う場面で、掲示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。												
	態	①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 ③一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。												

9 時案（6/12時間目）

(1) 日時 令和6年7月5日(金) 5校時（14:10～15:00）

(2) 場所 山梨大学教育学部附属中学校 グラウンド

(3) 目標

・仲間と話し合う場面で、掲示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

(4) 本時の評価規準

・仲間と話し合う場面で、掲示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。

(5) 展開

	学習内容と学習活動	教師の指導・支援
はじめ 5分	<p>○ウォーミングアップ</p> <p>○整列、挨拶、出席及び健康状態の確認</p> <p>○本時のねらいの確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ねらい:失点を最小に抑えるための課題を見付け、自分や仲間の考えを伝えよう。</p> </div>	<p>○本時の学習について、ホワイトボードを活用しながら説明を行う</p>
なか 40分	<p>【ボール操作等の反復練習】</p> <p>○捕球・送球練習</p> <p>・キャッチボール ・ゴロ捕球、送球 ・フライ捕球</p> <p>【話し合い活動】</p> <p>前回のゲームでの失点場面を受けて、失点を最小に抑えるためのチームの作戦を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【問い】 失点を最小に抑えるためのポイントや課題を見付けよう。</p> </div> <p>【簡易ゲームⅢ】</p> <p>・攻撃側の打者が1巡したところで攻守交代</p> <p>○振り返りタイム</p> <p>・チームで考えた作戦が実行できたか。作戦を実行するためにはどのような必要があるか、どのような練習をしたらよいか</p>	<p>○体の使い方や動きのポイントを確認しながら練習を進めることができるようにする。</p> <p>○仲間の動きを観察し、仲間への援助を活発にできるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価】</p> <p>・作戦などの話し合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。 (観察・学習カード)</p> </div> <p>【努力を要する生徒への手立て】</p> <p>・観察する場面の視点や動きのポイントを伝え、気づいたことや改善点を仲間に伝えることができるように支援する。</p>
まとめ 5分	<p>○用具の片づけ</p> <p>○本時の反省を記入</p> <p>○本時のまとめをし、次時の学習内容を知る</p>	<p>○成果と課題を学習カードに記入できるように指導する。</p> <p>○授業を振り返っての評価と次時の確認を行う。</p>

## 10 補助資料

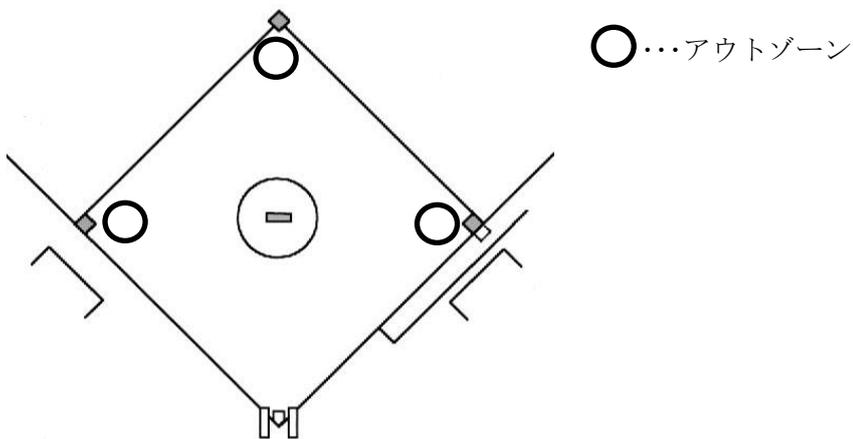
**簡易ゲームⅠ**・・・○30秒で何回キャッチボールのラリーを行うことができるか。

- 中継ゲーム（4人でボールをつなぎ速さを競う）
- ボール回しゲーム

**簡易ゲームⅡ**・・・アウトゾーンに早くボールを戻す。

### ルール

守備側がアウトゾーンにボールを戻すまでに、打者走者が進んだ塁が得点となる。アウトゾーンにもう一人の守備者が入って送球を受けることがアウトの条件となる。ボールを捕った者が、そのままアウトゾーンに入ることはできない。



### 身につけたい力

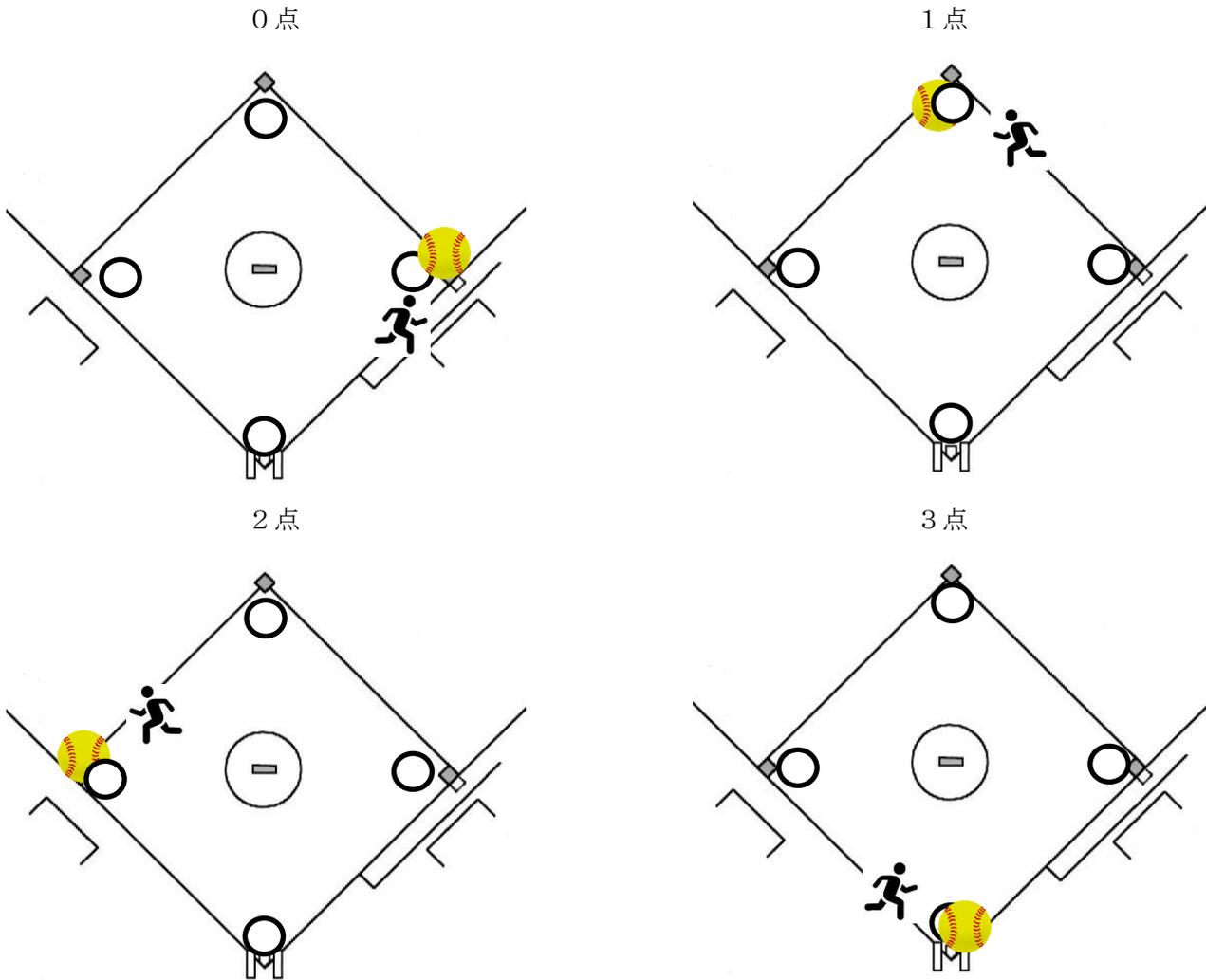
履修した基本的な技能をゲームのなかでいかす。

- ・捕球（ゴロ、フライ、味方からの送球）
- ・捕球後の送球
- ・バット操作（地面と水平にスイング）
- ・ベースランニング

簡易ゲームⅢ・・・打者走者を守備側が先回りし進塁を阻止する。

### ルール

守備側は、打球を捕球後、走者の先回りをしてアウトにする。その際、ベース近くの円にもう一人の守備者が入って送球を受けることがアウトの条件となる。



ボールより先にホームベースに戻って来られれば4点。

### 身につけたい力

守備の状況判断とベースカバーの動きを、ゲームを通して身に付ける。

打球へのバックアップ、送球へのバックアップの動きの必要性に気づかせたい。